

目的 香, 香水などの香粧は単に, 芳香を生活環境の中にとり入れるということばかりでなく, アロマテラピーなどがとり入れられるといったことから示されるように香りの問題は生活環境の中で新しい位置づけが求められている。日本には平安朝初期にすでに薫衣香が使用され, 火取香炉, 伏菴をもちい, 黒方, 荷葉などの衣服への薫香が行なわれてきた。香粧の生活環境への導入には, 衣服への薫香という過程を抜きにしては考へられな
ない。そこで, これらの香が布地からどのように発散されるかを調べる必要がある。

方法 香として, 黒方, 荷葉さらに, これらの収り香に含まれている α -pinene, β -pinene などの Monoterpene を用い。吸着される布地は金布, Polyester を用いた。デシケーター中においてこれらの香などを十分に吸着させた後, 清浄空気を一定流速で送風し, その空気を GC-TENAX を含む吸収管に, 発散してくる香を吸着させ, それをガスクロマトグラフィによって, 発散量の時間的経過を見た。

結果 Monoterpene を吸着させた場合には, α -pinene, β -pinene 何れの場合でも金布の方が Polyester に比して, それぞれ 1.6, 3.6 倍と早く発散していくが, 黒方, 荷葉については, 発散には有意な違いは見られなかった。

また, 伏菴による薫香に際しては伏菴にかいせる衣服の下に, 加湿のための水盤がよく置かれることを考慮して, 加湿した場合について, 黒方についてその発散をみたが, 有意な違いは得られなかった。